

東北帝國大學講堂增築落成記念演能

昭和十八年五月廿二日(土)午後一時始
於東北帝國大學新講堂



番組

櫻間金太郎

羽衣

寶生新

北村俊雄

垣本豊次
鳥田己久馬

替ノ型

狂言

布施無經

野村万藏

櫻間金太郎

融

寶生新

北村俊雄

垣本豊次
鳥田己久馬

笏之舞

附祝言

梗概

〔羽衣〕 作者は世阿彌元清、性的聯想を超越した天人を下界へ下して、幽玄無上の舞を舞はせることが主眼で、而かも序の舞と破の舞と二つまでも舞はせる。初めに問答の段に疑ひは人間にあり、天に偽りなきものを、さいふやうな箴言めいた文句もあるけれども、全曲としてそれを主題的提言と認めるわけには行かない。叙述は女主人公が天人であるから月宮殿のことが主になつてゐるが、天人の舞踊を東遊に結びつけてどこまでも舞踊遊樂の氣分を漲らせることに努めてゐる。場面は一場きりで、ワキは漁夫であるが曲柄のために品位を持たせ、登場歌には一聲を用ひてゐる。作物としては松の立木が正先に生まれ、その枝に長絹が懸けられる。

〔布施無經〕 シテは住持、毎月さる檀家の御祈禱に行く。今日も早か朝ら出掛けたが肝腎のお布施が貰へない内容に取紛れて忘れられたか、よし當月一度など取らぬ分は苦しいが此のやうなことは重ねての例になつた

がる。どうして此のお布施を取つたものか、二度三度立戻つて住持の苦心が續く中に狂言独自の愉快な諷刺と諧謔が展けてゆく。

〔融〕 作者は観阿彌清次とも世阿彌元清とも言はれる前者の原作を後者が改作したものであらう。河原の左大臣（融の大臣）の美的生活の思ひ出が主眼で、構成は諸國一見の旅僧が都に出て老翁に會ひ、河原の院の豪華な物語を聞いた後、旅寝の夢に入るが其處に先の翁が昔融の大臣の姿であらはれ夜遊の舞を見せることになつてゐる。観阿彌の原作には融の大臣の幽霊が鬼の姿で現はれて、我が邸宅の荒らされたことを憤る所があつたのを世阿彌が加筆して現行曲の形に改めたものと思はれ、全体に荒れ果てた景觀と變りなき月光を配して歲月の経過の徒らに迅速なるを感じしめるやうに表現してゐる。因みに作中にある鹽釜、籬ヶ島は河原の院に作られてゐた模様である。